

---

## IT + IoT/OT セキュリティ

---

JNSA 理事  
マカフィー株式会社  
セールスエンジニアリング本部  
本部長 櫻井 秀光



「使用しているOSやアプリケーションのセキュリティパッチは最新のものに適用出来ていますか?」という問いに対して、多くの方は、「それはセキュリティ対策のキホンの“キ”、当然出来ている」とお答えになるかも知れない。ただ、実状に関して不安にならざるを得ない事例が発生した。WannaCryとPetyaの大流行である。

PetyaはWannaCryと比較すると初期感染経路や感染手法が複雑なので、今回はWannaCryのケースをベースに話を進めていきたい。WannaCryは日本時間の5月12日(金)の夜に、ヨーロッパで感染が確認されてから瞬く間に世界中に感染を拡大した。現時点で感染している端末は全世界で50万台以上であると言われている。WannaCryの感染がここまで拡大したのは、これまでのランサムウェアとは異なり、自己増殖型のワーム型であったことに起因するが、感染拡大に利用されたのは、Microsoft製品に関する“既知”の脆弱性であった。Microsoft社は本脆弱性を修正するためのセキュリティパッチ(MS07-010)を日本時間の3月15日に公開しているので、セキュリティパッチを迅速に且つ適切に適用出来ていればWannaCryの感染は防げたことになる。

今回、セキュリティパッチを迅速に且つ適切に適用出来ていた故に被害を受けなかったケースも多くあるだろうが、気になるのは、WannaCryの感染がPCだけではなく、駅のデジタルサイネージや銀行ATM、さらには小売店舗の端末や工場の制御端末など、IoT(Internet of Things)やOT(Operation Technology、制御システム)機器に飛び火していた点である。「使用しているOSやアプリケーションのセキュリティパッチは最新のものに適用出来ていますか?」という文頭の問いに対して、IT機器であるパソコン等に関しては自信をもってYesと回答できるかもしれないが、自社にIoT/OT機器が存在する場合に、それらに関しても同じ回答となるであろうか。

今年の4月1日に「産業サイバーセキュリティセンター」が発足した。本センターにおいては、「ITとOT両方」のセキュリティ対策を推進していける人材を育成していく、という点が事業内容として明記されている。IT機器と比較するとIoT/OT機器に対するセキュリティ対策の実施度/成熟度は明らかに低い。ただ、IT機器と同じ対策をIoT/OT機器に対して実施すれば良いというほど簡単なものではなく、IoT/OT機器の特性を理解して、適切な対策を検討していく必要がある。2020年には、インターネットにつながる「モノ」(=IoT/OT機器)の数が500億個を超えると言われている。「IT + IoT/OTセキュリティ」対策の検討と実施の推進は待った無しの状況にある。

---